

黒潮町雇用促進協議会の解散について

厚生労働省の委託を受け平成20年7月に発足した黒潮町雇用促進協議会は、3カ年度の事業期間終了に伴い、3月31日をもって解散しました。

これまで協議会は、雇用不足を背景に若者を中心とした人口流出、少子高齢化、過疎化が進む黒潮町において、特産品、農水産加工品の開発や基幹産業である農業、森林業、漁業を中心とした雇用の創出に取り組み、地域の活性化を図ってきました。2月24日に行われた臨時総会には協議会会員および実務担当者13人が出席。協議会の解散が可決されました。



解散が決定した臨時総会の様子。

引き続き行われた事業報告会では、期間中に協議会が実施した地域雇用創造推進事業（新パッケージ事業）および地域雇用創造実現事業（実現事業）の事業実績が報告されました。

人材育成や就職促進に取り組んだ新パッケージ事業では、「地域特産品をいかしたもののづくりセミナー」や「黒潮町ブランド力創造セミナー」など、142回のセミナーを開催し90人の就職につながりました。また、具体的なものづくりを行う実現事業においては、カツオや黒砂糖をはじめとする特産品を使い94件の商品を開発。32先の販路開拓を実現しています。

協議会の取り組みによる大きな成果としては、

- ①厚生労働省主催の「パッケージ事業・ふるさと基金事業シンポジウム」において、全国の事例の中から「先進的な取り組み先」に選出される。
- ②大方高校と協力して開発した「カツオたたきバーガー」が、高知県地場産業振興センターから次世代賞を受賞。
- ③カツオ資源の実態調査、保護の必要性を発信することを目

的とする「日本カツオ学会」の設立に携わる。などが挙げられます。

山崎宇治長会長は総括として、「事業の実績と成果は当協議会の努力の結晶であり、産(民間)、学、官(行政)の緊密な協調体制がもたらしたものである。黒潮町の更なる地域振興にとって、この事業で構築された事業基盤(営業基盤+事業推進力)が有効に活用されることが、なにより重要なテーマであると思われる」とむすびました。



総括を述べる 黒潮町雇用促進協議会 山崎宇治長会長。

これまで協議会が蒔いた種により、数多くの産業の芽が出てきています。今後はそれを選択し育てることが必要であり、黒潮町が主体となり関係機関と連携して事業の継承を行っていきます。

【会員名簿】

- 黒潮町商工会 会長 小笠原武
 - 高知はた農業協同組合 大方支所長 吉福 猛
 - 高知県漁業協同組合 佐賀統轄支所長 澳本健也
 - 黒潮町長 大西勝也
 - 幡東森林組合 組合長 岸本四郎(副会長)
 - NPO 砂浜美術館 理事長 安光 平
 - 高知県立大方高等学校 学校長 谷岡博志
 - くらしお21 会長 下村勝幸
 - 有限会社ビオス 代表取締役 土居 忠
 - 黒潮町商工会 元事務局長 前田長秋(監事)
 - NPO はらから 代表 小谷義郎
 - 黒潮町協議会議員 西村策雄(監事)
 - 山崎宇治長(会長)
- 【事務局職員】
- 出口伸一・塩田剛・山中草
 - 松田佐智代・本間大輔
 - 山本省太・吉尾里砂
 - 松田高政(コンサルタント)
- お問い合わせ
- 本庁 総務課 企画振興係

☎ 43-2177(直通)